

磐梯山の火山活動解説資料（令和7年4月）

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

16日に振幅の小さな火山性微動を2回観測しましたが、その他の火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2、図4-①）

剣ヶ峯監視カメラによる観測では、山体北側火口壁の噴気の高さは50m以下で経過しました。今期間、噴気活動に特段の変化はみられず低調に経過しました。櫛ヶ峰監視カメラによる観測では、沼ノ平の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図3、図4-②～⑤、図5、図6）

4月16日の14時05分頃及び同日21時31分頃に継続時間がそれぞれ32秒及び25秒の火山性微動が観測されましたが、最大振幅はこれまで観測した火山性微動と比べて、特段大きいものではありませんでした。また、火山性微動の発生時及びその前後で、その他の観測データに変化は認められませんでした。火山性微動が観測されたのは2024年11月21日以来です。

今期間、火山性地震は少ない状態で経過しました。なお、中期的には2022年11月以降、火山性地震はやや多い状態で経過しており、2022年10月以前の状態まで戻っていません。

低周波地震は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図4-⑥、図7、図9）

GNSS連続観測では、2022年後半から山体膨張を示すわずかな変化が認められていましたが、2023年10月頃からは停滞しています。

○ 活動評価

中期的には2022年11月以降、火山性地震はやや多い状態で経過しています。また、今期間、振幅の小さな火山性微動を2回観測しました。一方で、これらの火山性微動の発生時及びその前後でその他の観測データに変化は認められず、GNSS連続観測で2022年後半から認められていた山体膨張を示唆する変化は、2023年10月頃から停滞していることから、噴火の兆候は認められません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和7年5月分）は令和7年6月9日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

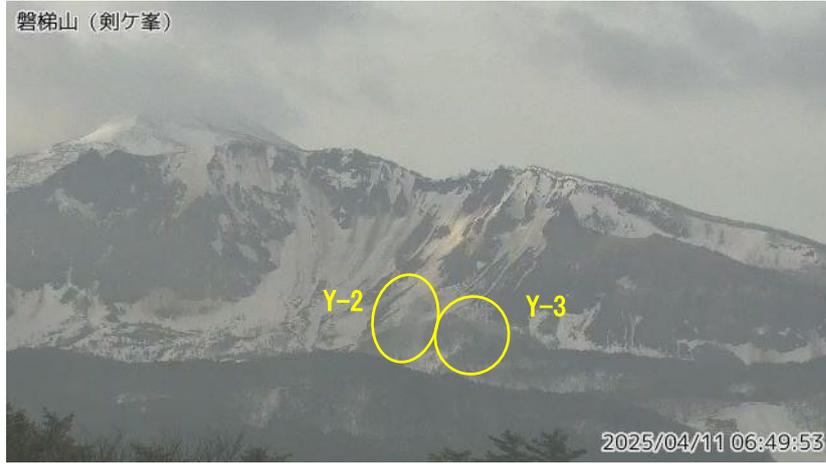


図1 磐梯山 山体北側火口壁の噴気の状態（4月11日）

- ・ 剣ヶ峰監視カメラ（山頂の北約7km）の映像です。
- ・ Y-Oは山体北側火口壁の噴気の状態を示す記号です。

噴気の高さは50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。



図2 磐梯山 沼ノ平周辺の状況（4月11日）と地表面温度分布（4月22日）

- ・ 櫛ヶ峰監視カメラ（沼ノ平の北東約600m）の映像です。

噴気は認められませんでした。

沼ノ平の地熱域（白破線）に特段の変化は認められませんでした。

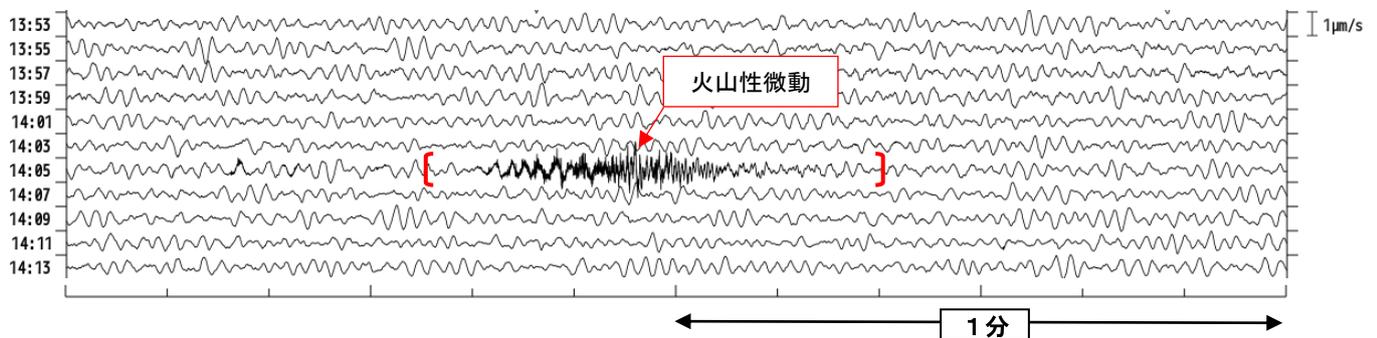


図3 磐梯山 裏磐梯高原観測点（上下成分）での火山性微動の発生状況
（2025年4月16日13時53分～14時14分）

- ・ [] は火山性微動の発生時を示します。

火山性微動が16日に2回発生しました。最大振幅はこれまで観測した火山性微動と比べて、特段大きいものではありませんでした（図4-⑤）。火山性微動発生に伴う傾斜変動は認められませんでした。

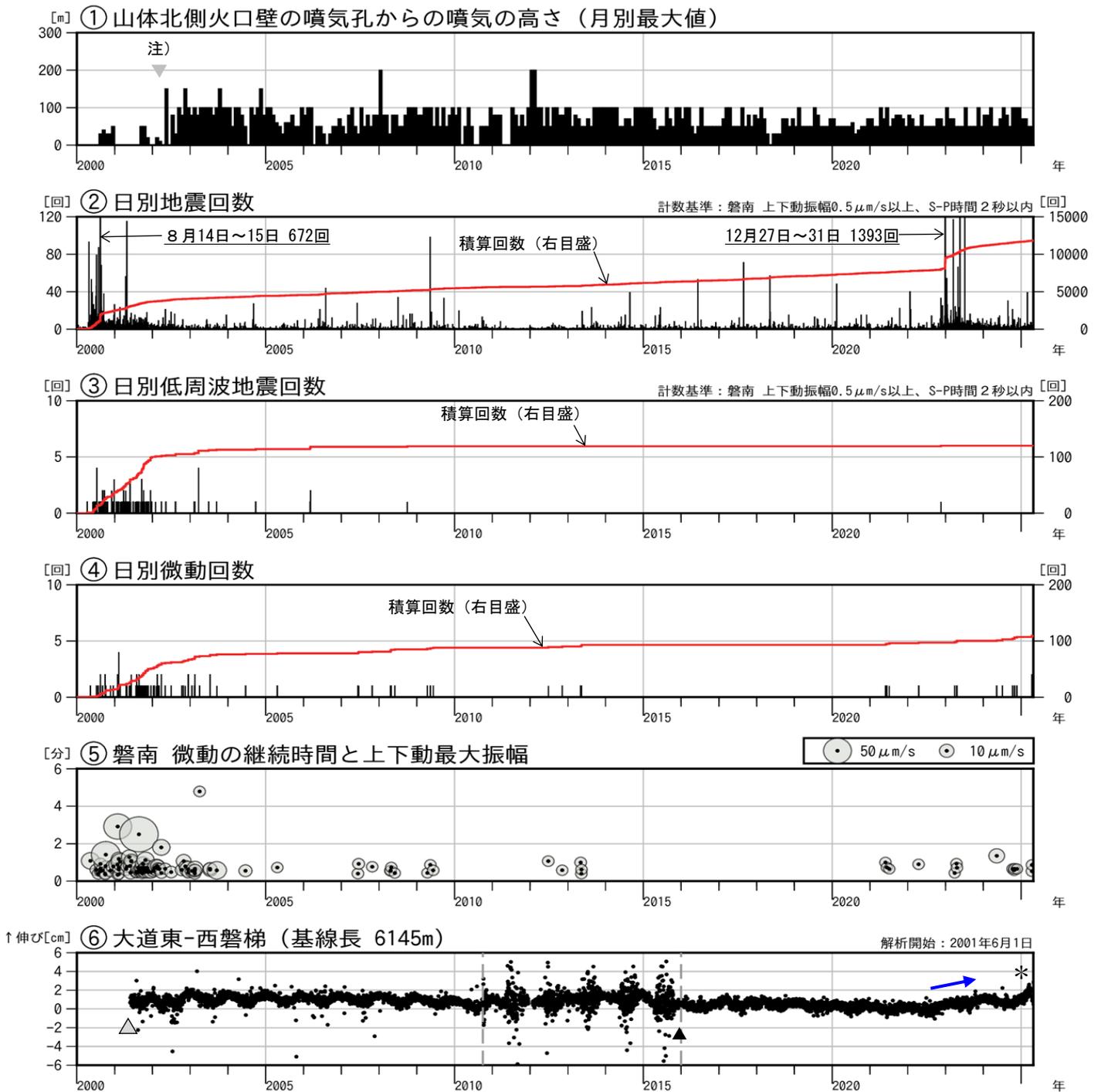


図4 磐梯山 火山活動経過図（2000年1月～2025年4月）

・⑥は図9のGNSS基線⑥に対応しています。

・2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています（⑥）。

注）2002年2月以前は定時（09時、15時）及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。

▲：解析開始を示します（⑥）。

▲：大道東観測点及び西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました（⑥）。

*：西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます（⑥）。

火山性微動が16日に2回発生しました。

今期間、火山性地震は少ない状態で経過し、低周波地震は観測されませんでした。なお、中期的には2022年11月以降、火山性地震はやや多い状態で経過しており、2022年10月以前の状態まで戻っていません。

GNSS連続観測では、2022年後半から山体膨張を示す基線長のわずかな変化が認められていましたが（青矢印）、2023年10月頃からは停滞しています。

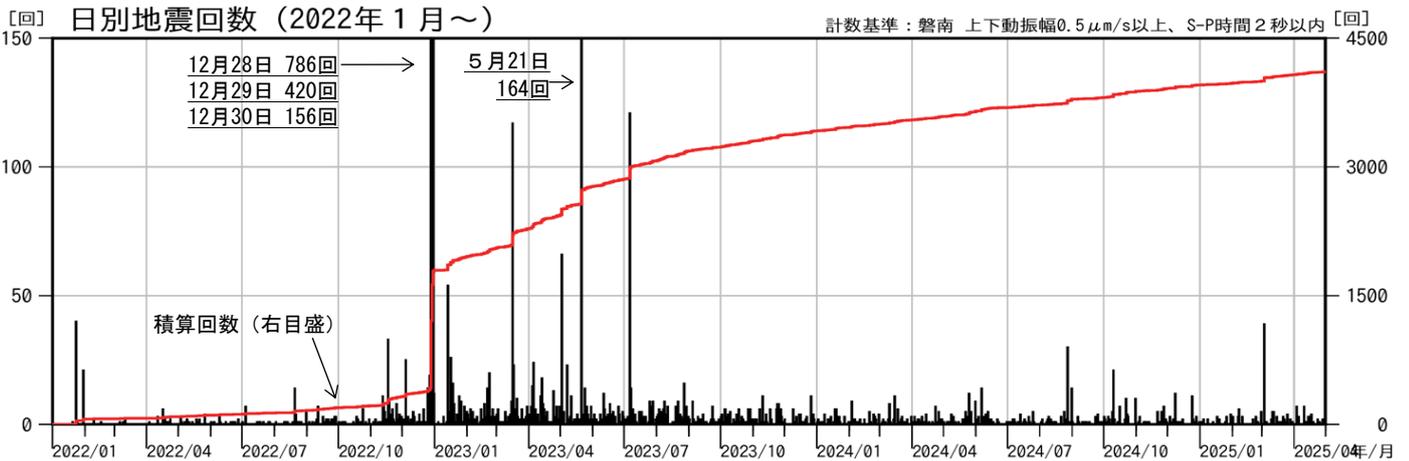
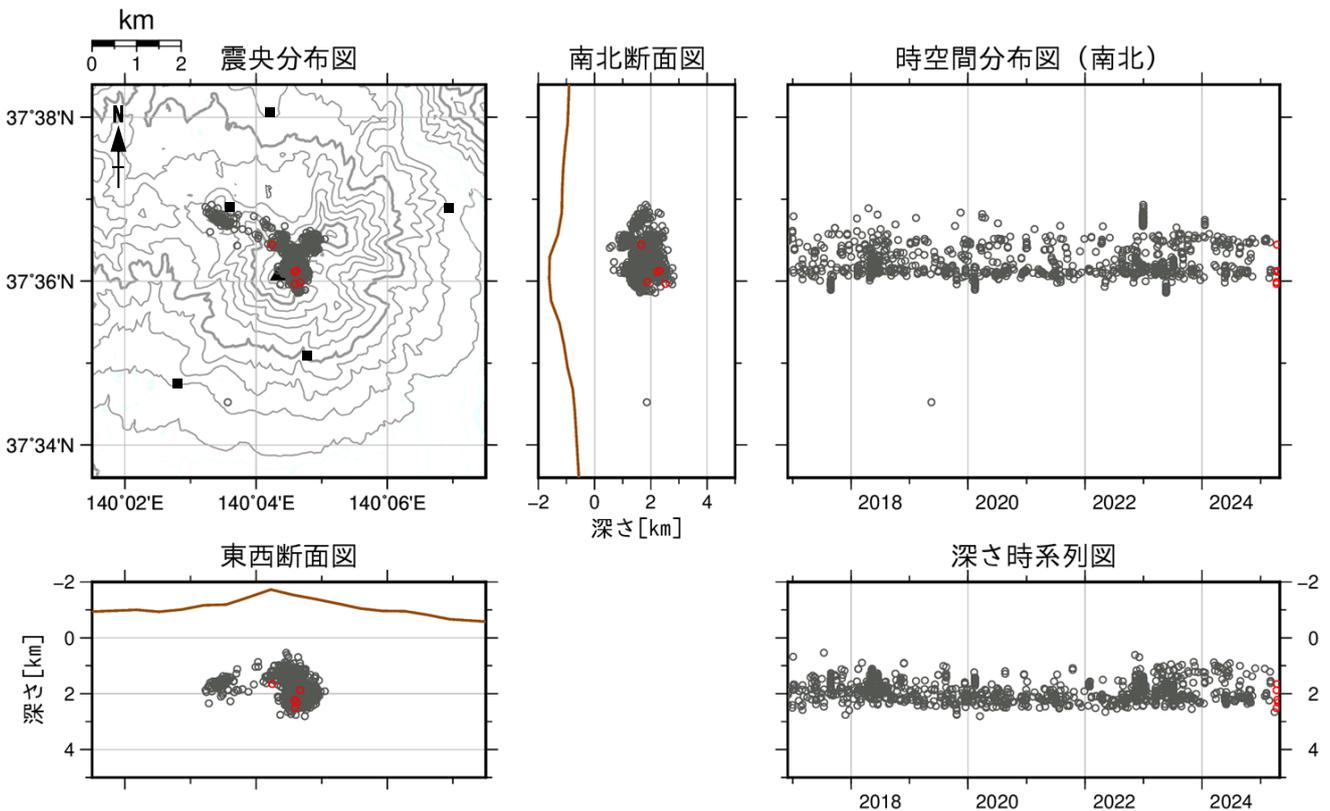


図5 磐梯山 地震回数（2022年1月～2025年4月）

今期間、火山性地震は少ない状態で経過しました。なお、2022年11月から火山性地震はやや多い状態で経過し、同年12月末には活発な地震活動が認められました。その後、地震回数は徐々に減少していますが、2022年10月以前の状態までは戻っていません。



○ : 2025年4月1日～4月30日 ○ : 2016年12月1日～2025年3月31日 ■ : 地震観測点位置

図6 磐梯山 震源分布図（2016年12月～2025年4月）

今期間、震源が求まった火山性地震は、山頂付近の深さ約1～3 km 付近の領域で発生しました。

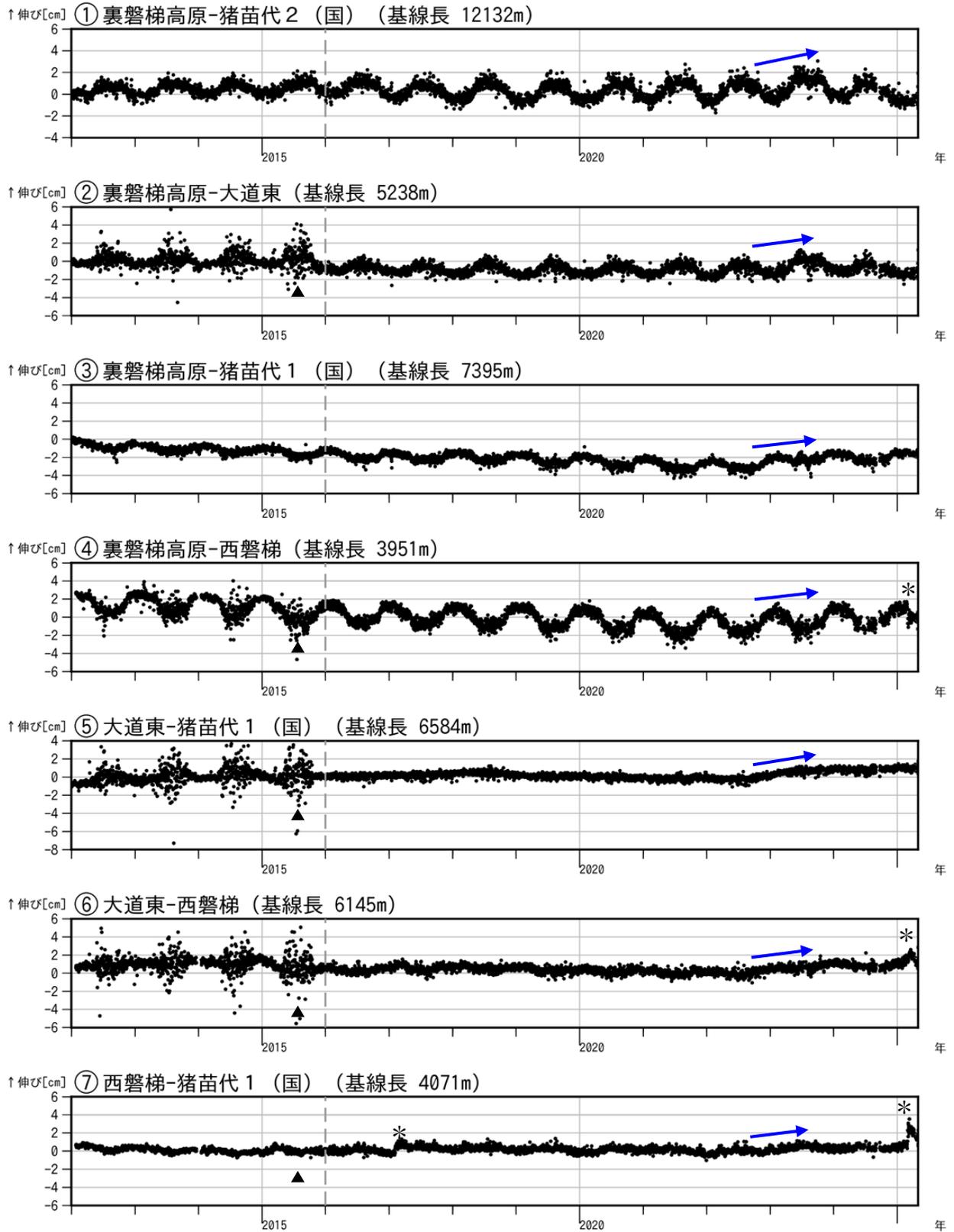


図7 磐梯山 GNSS 基線長変化図 (2012年1月~2025年4月)

- ・2016年1月に、解析方法を変更しています。
- ・①~⑦は図9のGNSS基線①~⑦に対応しています。
- ・空白部分は欠測を表しています。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- ▲：大道東観測点及び西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました。
- *：西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

GNSS 連続観測では、2022年後半から山体膨張を示す基線長のわずかな変化が認められていましたが（青矢印）、2023年10月頃からは停滞しています。

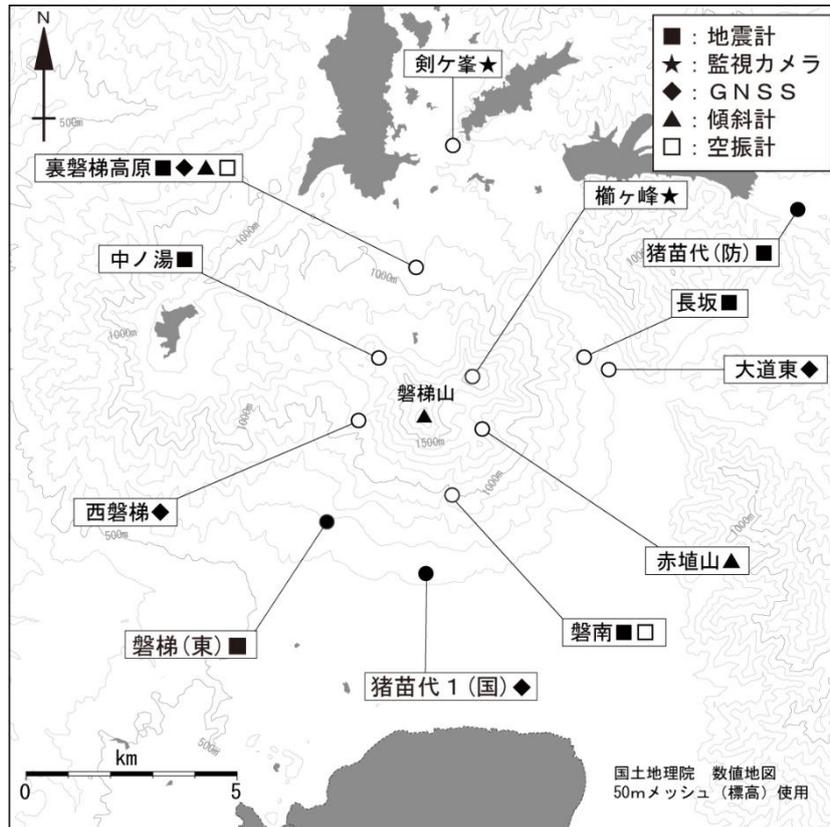


図8 磐梯山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

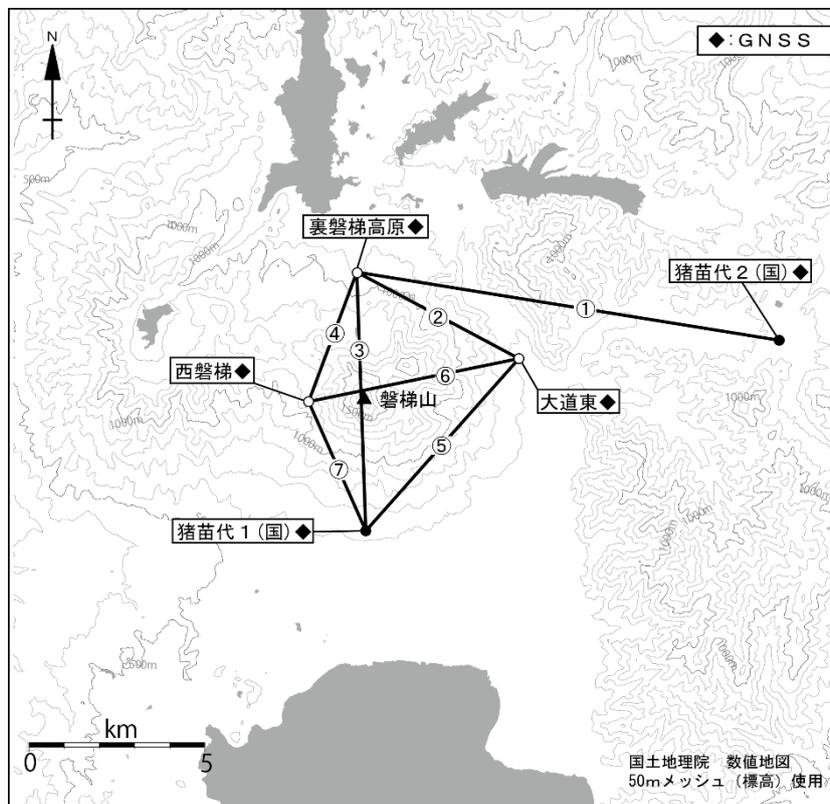


図9 磐梯山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院